

平成 23 年度まちづくり懇談会会議録【六郷地区】

日 時 平成 23 年 7 月 28 日 19 : 00 ~
会 場 文化会館アエル 小ホール
参加者 58 人

市長から「防災対策について」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談(質疑応答)に入りました。

(1)防災対策に関する意見交換

地区自治会からのご意見・ご質問

なし

会場からのご意見・ご質問

県営住宅 男性

六郷地区は津波の影響がありますか。

安全課長

六郷地区につきましては、海からの距離が 10Km 以上離れており、標高も海拔 20m 位まで上がってきます。今回の津波の被害につきましては、仙台平野付近の海岸の地形が、遠州灘付近の地形とよく似ていまして、西部地区管内の 8 市 1 町で想定するなかで、現地における津波の痕跡調査が行われており、被害のある地域が海岸線から凡そ 5 Km、標高にして 5 m 以下といった調査結果が出されています。この結果を踏まえたうえでは、この六郷地区まで津波が押し寄せると想定にはならないということが言えるのではないかと思います。今現在、菊川の河口におきます、東海地震によります津波の格差は 6 . 7 m、そのうえで、今後想定されます三連動に変わった場合の想定が、大学の先生などからは、2 倍とか 1 . 5 倍とか言われております。そのあたりの見解につきまして、今後、三連動につきましてはの想定がどの様に反映されてくるか、それによってどの程度の範囲が被害想定として含まれてくるか、先程の何個かありましたがその辺の見解によろうかと思えます。

島 男性

防災会3年計画で、島の防災対策を強化しようと進めており、市の拠点作りにつきまして大変心強く思っていますが、第1次的な、災害が発生した時の拠点は、私共の自治会ですと集会場になります。したがって、集会場の整備も出来まして、補助金もいただき防災倉庫も用意して、着々と資機材とか訓練など進めているわけですが、第1次の拠点として、集会場あるいは公民館の耐震対策について何かお考えがあれば、簡単に言えばお金が掛かるものですから、市の財政だけではなかなかできないものですから、そのあたりを強化するお考えがあるのかどうかお聞かせいただきたい。

生活環境部長

島の公会堂は、昭和56年以降に建てられたもので、市独自の耐震補強に関する補助はございません。そういったなかで、県の方で、建替えをする場合には、「コミュニティ施設整備事業」という補助金がございます。その中で、県と市と併せて800万円ほど建替補助があります。このような状況ですので、現在、市として県に補助の創設を要望しておりますのでご理解をお願いしたいと思います。

島 男性

六郷地区センターも耐震性がないということですので、併せてお願いいたします。

地域支援課長

六郷地区センターの耐震につきましては、私どもでは耐震性は保たれていると診断がなされているので、ご理解をお願いしたいと思います。

島 男性

島は地区センターのすぐ傍ですが、何かあったときにはそちらの方に避難してもよろしいでしょうか。東中学までは歩くだけで20分以上掛かります。傍に耐震性のある立派な建物があれば、そちらを緊急の場合は使っても良いのかどうかということですが、今のルールでは使えないものですから、理由を聞いたところ、耐震性が無いということでそこは使えないとご説明いただいているものですから質問いたしました。

安全課長

地区センターにつきましては、避難所としてではなく、地域の防災の情報拠点として活動をさせていただく場所となっています。そういったことから、避

難所としては東中学校と六郷小学校になりますので、ご理解いただきたいと思
います。

(2)まちづくり全般に関する意見交換

地区自治会からのご意見・ご質問

なし

会場からのご意見・ご質問

牧之原 男性

最近掛川に行くと、深蒸し茶は掛川本来のお茶だと盛んに言っている。深蒸し茶は菊川が本元だと思う。深蒸し茶を開発したのは、牧之原の小松喜三次さん。菊川でもう少し深蒸し茶をPRできないか。掛川がNHKで出てしまったものですから掛川でもものすごく売れているらしい。それで掛川に行くと深蒸し茶がどういうものか知らない。喫茶店などでは、お店の人達が深蒸し茶そのものの自体をわからなくて売って飲ませている。そんな訳で、もう少し菊川茶をPRしてもらいたいと思う。

市長

深蒸し茶が「ためしてがってん」に取り上げられることで全国へPRされ、深蒸し茶というお茶が全国レベルでかなり認知されたと思います。市でも小松さんが開発に携わった4人のうちの一人だということも文献などで調べてお
りまして、今、深蒸し発祥の地ということで菊川市茶業協会を中心にPRをして
おります。特に平成23年度は、職員が名詞などでPRしたり、新聞に折り込み
をするなど、今まで以上に菊川市が発祥の地だということ取り組んでいます。
また、お茶の菊川のPRのポロシャツも作りまして、これが市内で800人くら
い着てくださいまして、職員もほとんどの者が買って、これを着てPR活動
を行うなど、去年とは一味違った活動をやっております。長い歴史のなかで、一
朝一夕には出来ませんけれども、深蒸し茶発祥の地ということは事実だと思
いますので、これから更にPRしていきますのでよろしくお願ひしたいと思
います。

半済 女性

道路の事で、街の中の通りを大きい車がバンバン通り、道が割れたり、家に響いたり、廃棄ガスがひどい。1丁目から3丁目では通りが少なく、歩行者は通るけど車が通らない。不公平だと思いますがどうということですか。

建設経済部長

道路を作るには道路計画を作りますが、基本的な考え方として、菊川市を通過していく車輛は市街地を離れた道路を通り、市街地の中は、市街地に用事のある人とか市街地にお住まいの方達が使うといった、道路の機能分担が一番良いのですが、残念ながら本市においては、そこまでの機能分担は出来ていない実態がございます。大型車輛が通りますと、振動、排気ガスなど、市民生活に対してよくない事態が発生していることは存じ上げております。ただ、機能分担されていないこともありますし、現実的にそういった車も通らざるを得ない状況もありますので、なかなか公安委員会で規制をかけることは困難であり、いまの時点で直ちに解消できる環境ではありませんので、特別にお困りのことがありましたら、市役所の建設経済部の方で道路関係の部署がありますので、道路そのものが傷んでいるということがあったり、道路に凹凸があることによって振動するといったことなど、道路に何らかの手当をすることによって改善されることがありましたら、私どもが改善措置を講ずることができますので、詳細についてお話をいただきたいと思っております。

地区会長

今回の防災も含めて、自治会にどの程度の負担を掛けるのかというのが一番のポイント。例えば市で色々計画されている地域支援の1%補助金など、市も厳しい状況でお金を出していただいているが、最後の着地点というのが、例えば六郷地区であれば、そこに住んでる人達が顔見知りになる、そういうことが最終的には防災、防犯含めてそういったことに繋がっていく話だと思います。ところが、六郷地区というのは非常に広い。中の人達も大きく分けると3つくらいの固まりに分けられる。どういうことかということ、私を含めたよそ者がくらしている地域、昔からの街の人達、農村部の人達の大体この3つに分かれる。そうすると、それぞれが生活の基盤が違うものですから、非常にまとめ辛い。特に、今の若い人達はそうなんですけれども、働いている人の場合、生活の基盤が菊川市に無い方が多い。そういった形を考えていくと、非常に六郷地区はまとめ難い。それで行政からの要請は、なるべくここで纏めなさいといわれる。非常にハンドリングが難しいです。例えばゴミとかいわゆる生活のルールであれば、六郷地区で纏めるのはそんなに難しい話ではないです。ところが、それ以外の事になってくると、例えば自治会長会議では27人集まります。そうす

ると、1人1分話ただけで、30分掛かってしまいます。当然、1回発言したらそれに対する答えがあって、それに対して、と考えていきますと、とてもではないけれども仕事が終わって夜7時半位からとても出来ない状態です。できればこの辺り市の方でもいろんな形でアドバイスしていただきたい。少なくとも自治会長会議で、民意を上げてそれを行政の方に伝えるというのが本来の自治会の姿だと思っているのですけれども、今の形で行きますと、行政の方からの意見を下に伝えて終わっているのが現状です。決してこれが良いとは思っていないです。ただ、もう少し良い方法は無いのかと、このままで行くと結局、自治会の地区長を務めても、やたらと忙殺されるだけで1年間じっとしていれば良いということになる。例えば、まちづくり懇談会に集まってきている方を拝見しますと非常にうれしい。若い人がいっぱいいらっちゃって。こういう人達の意見を吸い上げる場所が無い。ですから本当にこのまちづくり懇談会などの頻度をもっと、スケールは小さくて良いと思いますが、若い人達の意見をもっと何処からか集めるような方法を考えていただけないかというのがお願いであり、皆さんの意見をお伺いしたいことでもあります。

生活環境部長

どの地区でも同じですが、その地区の歴史とか取組の状況とかは違っております。そういった中で、行政として、こういった形がベストであるかは言えないのですが、1つ言えるのは、情報の伝達とか提供、住民の親睦と交流がなされている様な形をとっていただければ、基本的には地区の考え方を尊重していきたいと考えています。そういった中で、こういったことが出来るか検討していただければありがたいと思っております。

地区会長

検討できないからどうしましょうかと言っているのですけれども。

地域支援課長

六郷地区自体を割るということではなくて、自治会が27と確かに一番市内でも多い地域でございまして、そちらの方を部長の方からブロック化という事も出ましたけれども、そういった形を取れるか取れないかかといったところを、今の情報を伝える、それから皆さんから情報を行政に伝えていただくという機能を担保しながら、どういう形が良いのかこれから、この場でどうしますといったことは答えられませんが、地元の皆さんと我々もご相談に乗りながらこういう形がよろしいのかという事を考えて行きたいと思っております。

地区会長

考えるということですか。

企画政策課長

27の自治会を纏めるというのは非常に大変なことだと思います。ただ、分かれてしまうことで、それによるデメリットというのも当然あると思います。その点についての議論というのは、地区自治会でしていただきたいというのが行政としての部分なのかなと思います。また、今現在がこうだからという事も当然考えなくてはならないことの一つだとは思いますが、例えば、いま地域の自治会を担っていただいているのは団塊の世代の方が地域に戻って比較的活動していただいているかと思うのですけれども、私の個人的な意見になるのですけれども、私くらいの世代になってくると、地元に残っている人間というのは非常に少ないのが現状です。なぜこのようなことをお話するかと申しますと、例えば我々が将来地区に戻ったときに、いまのような自治会の活動を将来担えるのかということがすごく感じるところであります。いま27で大変だという気持ちは分かるころではあるのですけれども、もう少し、5年、10年を考えたときもどうだということまで含めて地域の中でももう少しご議論いただきたいというのが我々の考えでございますので、いま即答は出来ませんけれども、もう少し地域の中で、メリット、デメリットそれから将来のことも含めてご議論いただくような形でお願いしたいと思います。ぜひそういう形でお願いいたします。

地区会長

県営住宅の自治会長を始めた時のことですが、県営住宅は働いている人がほとんどなんです、ところがいま自治会の活動というのが、働いている人には非常に辛いんです。六郷地区の場合ですと、自治会長の選出基準というのが、順番とかいろんなケースが高いです。そうなってくると、現役があたるケースがあるわけです。ちなみに、地区長、私も現役ですし、去年の片山会長も現役なんです。私は一人で仕事してますからまだ良いのですけれども、別の面から一人ですから、休むとその分お金が入ってこないのですけれども、だから片山さんの場合ですと有給休暇をとるということで、結局8月で有給は全部つぶれているという話なんです。それで、結局そういったイメージが自治会長、ていうのは皆さんあるっていうことを若い人達を感じてしまっているんです。だから若い人は、本当は一番大切な人なんですよ、その若い人達の声を吸い上げる場所が無いのです。こればどういうことかということ、行政からの依頼事項自体をもう少しなにか方法を考えていただけないかというお願いでもあるのです。も

しくは、一人二人の顔が変わるだけで委員会の名前が違うような会議を減らしていただくとか、そういう形で、少なくとも自治会長は大変だっていうのはあるんですけども、それ以上に、付き合わなくてはいけない部分そこら辺の軽減をやっていただかない限りは、おそらく自治会長を選ぶにあたって、現役では無い人を選ぼうとかそういうパターンが続くと思うのです。逆に言うと、行政の方も考えていただきたいと言う事です。そういったことがある程度解決してくれば、自治会長に現役がなったとしても、それなりに責任をもって出来ると言える訳です。

ちなみに、県営住宅では委員を選ぶにあたって、外国人を順番だからといって出していたんです。非常に失礼な話ですね。外国人にしても、言葉が分からないですから、ストレスが溜まって、最初一回出てそれ以降出なかったとか、逆に六郷地区の自治会の方達にご迷惑を掛けたことも事実なんです。そういうことも含めて、お役所のお仕事若しくは市民の義務とは言っても自治会というのは任意団体ですから、加減は自由なんです。そういうふうに考えてくとある程度依存の度合いをもう少し軽減していただく部分も欲しい。それと、先程六郷地区は大変だといったのは、27 あるっていうのも1つありますけれども、属性も違いますから、そうするといわゆる六郷地区として1つの答えを出しなさいというのは行政の圧力なんです。それが辛いんです。そこら辺を纏めるといのが難しいんです。そこら辺の自由度を自治会ごとに与えていただければそれなりのまちづくりが出来ると思うんです。ところが1%の交付金、そこらを含めまして、人数、世帯数、例えば今度の敬老会もそうですけれども、世帯数の割合からすると、なんで横一線の金額なのか。合わないです。当然、自治会によったらお金の厳しい自治会が出てきてますから、そういう意味での負担金の軽減という問題も出てきます。それを含めると非常に六郷地区は冷遇されている。各自治会長や常に地区長が申し送りしてきている話なんです。そういったことをまちづくり懇談会なんかでもどのようにしていけば良いのだとか、若しくはお役所の方達がどういう方法を見せたいのか、と言うものがもう少しほしいなと、例えば今日の防災の市長のお話も大切なお話なんですけれども、出来ればあの後に六郷地区はどうなんだというお話を聞きたかったですね。要するに、あのお話だけを聞いてると、津波もとかいろいろな話も出てきていましたが、実際2年前に地震があったとき、たしか六郷地区でも非常に極端でしたが、例えば青葉台辺りが瓦がポンポン落ちちていて、逆に瓦が落ちちていないところもあったんですよ、例えばそういう時のアドバイスっていうのが、本当はこういうまちづくりというこういう1つの地区でやるのであれば、やっていただいた方が皆さん質問しやすいと思うんです。

企画政策課長

自治会長さまのご負担が多いというご意見として本日承り、市の内部で問題意識を持たせていただきますのでよろしくお願いいたします。

神尾 男性

道路網の整備のことで、菊川橋周辺の渋滞というのが今もって何にも解決されていません。工業団地があそこに出来てから、ほとんどあの地区の道路の整備をしてないです。いま小田石油のところのアンダーを抜いて、掛川に行く道を作るのかという事に対しても、作りませんと、菊川橋の拡幅もありませんと、そういう意見を六郷地区センターあるいは神尾へ来たときにも質問した方がいるのですけれども、希望もてる答えというのが1つもありません。さきほど言われたように、六郷小学校の前の辺りは、小学校の子供が通る道路にもかかわらず、ものすごい車の渋滞です。あれを何とかするとか、拡幅するとか、あるいは工業団地に行く車は時間制限で通さないとか、何かをいつかするだろうと思ったりしているのですが、何にもしないです。町部の方は、若干街の方を触ったところもありますが、行き止まりの道も非常に多い。都市計画であれだけのお金を町部に掛けておきながら、いま言った六郷地区の方を見るとほとんどそういうことが活かされてないです。住民とすると、出来ないではなくてやって貰いたいという意味で質問したにも関わらず、予定がありません、出来ませんという答えであったものですから、質問した人も怒ってしまったのですけれども、今後も、六郷地区含めた、大曲というところまでは道がちょっと広がって、インターへ行くところまでは出来たのですが、大曲のミニストップの所から菊川橋周辺までを含めて、道路整備、拡張する予定が今後どのくらいの目処であるのか無いのか、朝、通ってみればどのくらい渋滞しているか分かると思うのです。子供の安全も含めて将来的な希望を聞きたいと思います。

建設経済部長

JRアンダーのところ工事を行っていますが、駅の南と北の風通しをよくするためにJRの下を掘っています。これは平成24年度には完成させるということであり、今の計画では、北側に柳坪線と言う東西に走っている道路がありますけれども、あそこにぶつけて今のところはそれで終了となっています。それから先には国道1号線にぶつけるような道路を作ったらどうかという話もいただいておりますが、今の時点におけるその道路計画は持ち合わせておりません。

それから菊川橋の関係ですけれども、今、建設課で菊川市内の市道にある橋のうち橋の長さが15m以上の物の調査をしています。これからは新しい物を作

る時代ではなく、いまある資源をどれだけ長寿命化させるかが一番大事だと思っ
ていますので、そのような橋をどうしたら長寿命化できるのか、無理であれば
橋を変えるしかありませんので、いまその調査を2年間かけて行いまして、
今年それを整理して序列化します。例えば、道路も色々な規模がありますので、
1つには防災の関係もありますけれども、避難路として非常に重要性の高いも
のがあります。そういった場合には、その道に使っている橋については、橋が
落ちてしまうと避難路としての機能が果せません。従ってそういった橋は、優
先的に耐震なり、架け替えをしています。そういう整理を今年度やりますので、
その中で菊川橋については、その方向性がきっちり出てくることになります。

道路の関係では、東名側道で東へ行くところと、六郷小学校へ分かれている
所がありますけれども、あそこが確かに渋滞することは存じ上げております。
1つネックになっておりますのは、東名のガードのところがありまして、あの
ガードを今の段階で広げるということは、ある意味JRのアンダーと同様で、
非常に資金も掛かりますし、あそこを触るということは非常に困難な話であり
ます。それから、そこを触らずにこちら側の道路の形状を変える方法も1つあ
りますが、あそこについては正直もうしあげまして今具体的な物を持ち合わせ
ておりませんのでお答えできませんけれども、あその状態は認識しておりま
すので、そこについては検討を進めて行きたいと思っております。

いずれにいたしましても、今私たちは、道路を含めまして菊川市をどういう街
を作ろうかということを検討しております。その中で、間違えなく言えるのは、
少子高齢、人口減少と低経済の時代を迎えるだろうということです。もうすで
に高齢化はすすんでおりますし、人口減少も始まっております。そういった時
代をこれから迎えるに際して、今のような過度に車に依存する社会が本当に良
いのだろうか、むしろ高齢化が進めば進むほど、自分の生活圏の中で、生活が
完結するようなコンパクトなまちづくりが必要なのではないかと、そういうよ
うなことを考えています。その様なことも踏まえながら、これからの道路、先程
言いましたアンダーを抜けて1号線にぶるけるような、いわゆるスピードです
ね、点と点を短時間で結ぶ、こういった発想が本当に良いのだろうかというよ
うなこと、こういった角度も含めながらですね、道路についてもう一度検討し
ていきたいと思えます。

そういうことで、アンダーから北については今は持ち合わせていない、菊川
の橋については、今年度、橋の序列化を踏まえてどうするかははっきりさせます。
道路については、もう一度しっかり見直して行きたいと思えます。

神尾 男性

人口減少という言葉が出ましたけれども、自分たちは団塊の世代で60を少し

越しました、今現在、車に乗っている人は、80 から 85 歳まではほとんどの方が車にのっています。ですから、自分たちの世代は 20 年 30 年先までは、車の数は減らないと思います。人口減少は、子供は減っても、老人が走る量は減りませんから、そういうものを含めた道路ということを入れないと、いま現在でもそういう人達が、本当に 30Km、40Km くらいで目的も無く走っているような人が結構多いです。これからどんどんそういった人が増えてきます。その時道路が安全だということでない、いま人口が減っていくから道路を新設とか増やすとか考えないといっても、あと 30 年間そのまま乗ってます。いま現在免許持ってる人はずっと乗ります。それまで頭入れおかないと、ただ減と考えていくと全然違ってくると思います。

建設経済部長

ご意見ありがとうございます。確かにお年を召して、足腰が弱くなることによって車に依存するという傾向も確かにあります、一方では、歳を取るごとに運動神経に影響が出てきて、そろそろ運転をやめようかなということが出てくることも事実であります。確かに、建前を言えば 75 歳以上の方、平成 17 年の国政調査によりますと 4,800 人位いましたが、これが、平成 47 年、30 年後になりますと 8,880 人ということで、4,000 人位増えてしまうようで。そういうことは、統計的に推計されているものですから、75 歳以上の方が、倍まで行きませんが、増えていく状況は間違いありません。そういう状況のなかで、今お話いただきましたように、お年を召せば召すほど車に依存するという傾向は、あるかもしれません、そういった場合には、そのような方達が運転できるような道路を考えなくてはいけないということはあるかと思えます。ご意見ありがとうございます。

閉会